

社会福祉施設等における感染症対策の基本

集団感染を防ぐ！ ～利用者と自分を守るために～

長野県松本保健福祉事務所
健康づくり支援課



しあわせ信州

目次

感染対策の基礎知識・・・p3

結核・・・p15

インフルエンザ・・・p22

ノロウイルス・・・p26

その他の感染症・・・p32

まとめ・・・p33



感染対策の基礎知識

- 感染症は①病原体（感染源）、②感染経路、③宿主の3つの要因が揃うことで感染が成立。
- 感染対策の原則
感染成立の3要因への対策と、
病原体を①持ち込まない、②持ち出さない、③拡げないが基本。

◆感染を成立させないために

標準予防策（スタンダード・プリコーション）が重要！！

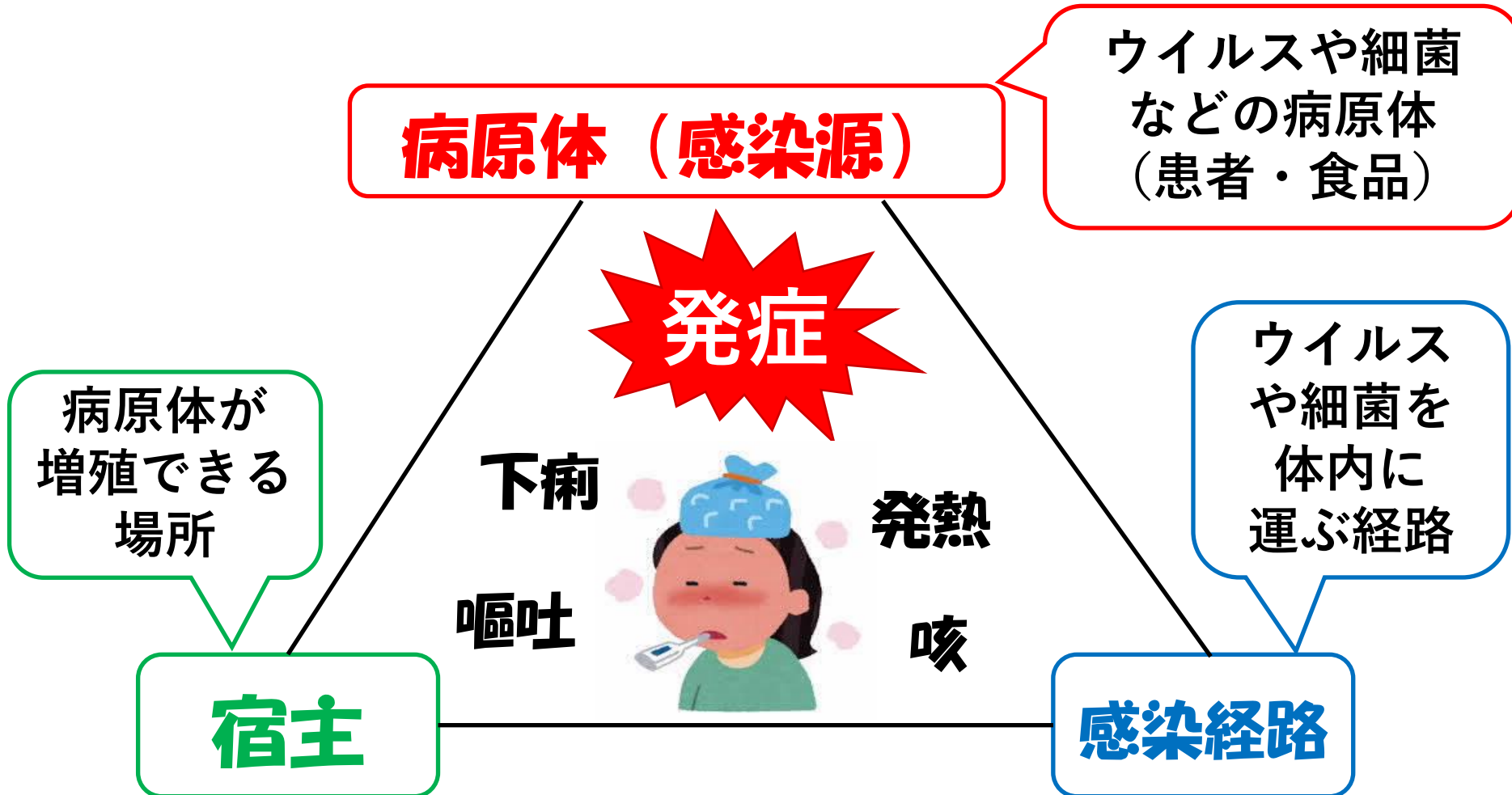
標準予防策（スタンダード・プリコーション）とは

感染対策の基本として、全ての血液、体液、分泌物（喀痰等）、嘔吐物、排泄物、創傷皮膚、粘膜等は感染源となり、感染する危険性があるものとして取り扱う考え方。

具体的な内容は、手洗い、手袋の着用をはじめとして、マスク・ゴーグルの使用、エプロン・ガウンの着用と取り扱いや、ケアに使用した器具の洗浄・消毒、環境対策、リネンの消毒等がある。



感染成立の3要因



3つ全てがそろうと感染が成立！



感染対策の3要因への対策

病原体(感染源)

病原体(感染源)
の排除

抵抗力の向上

重要!



感染経路
の遮断

発症

宿主

感染経路

3つの要素に対策をして感染を防ぐ!



病原体（感染源）

感染症の原因となる微生物（細菌、ウイルス等）
を含んでいるもの

- 嘔吐物、排泄物（便、尿等）、創傷皮膚、粘膜等
- 血液、体液、分泌物（喀痰・膿等）
- 使用した器具・器材（注射針、ガーゼ等）
- 上記に触れた手指等

「鼻をかんだティッシュ」も感染源

適切な消毒と処理をすることで排除できる！

感染経路

主な感染経路（病原体がヒトに到達する経路）

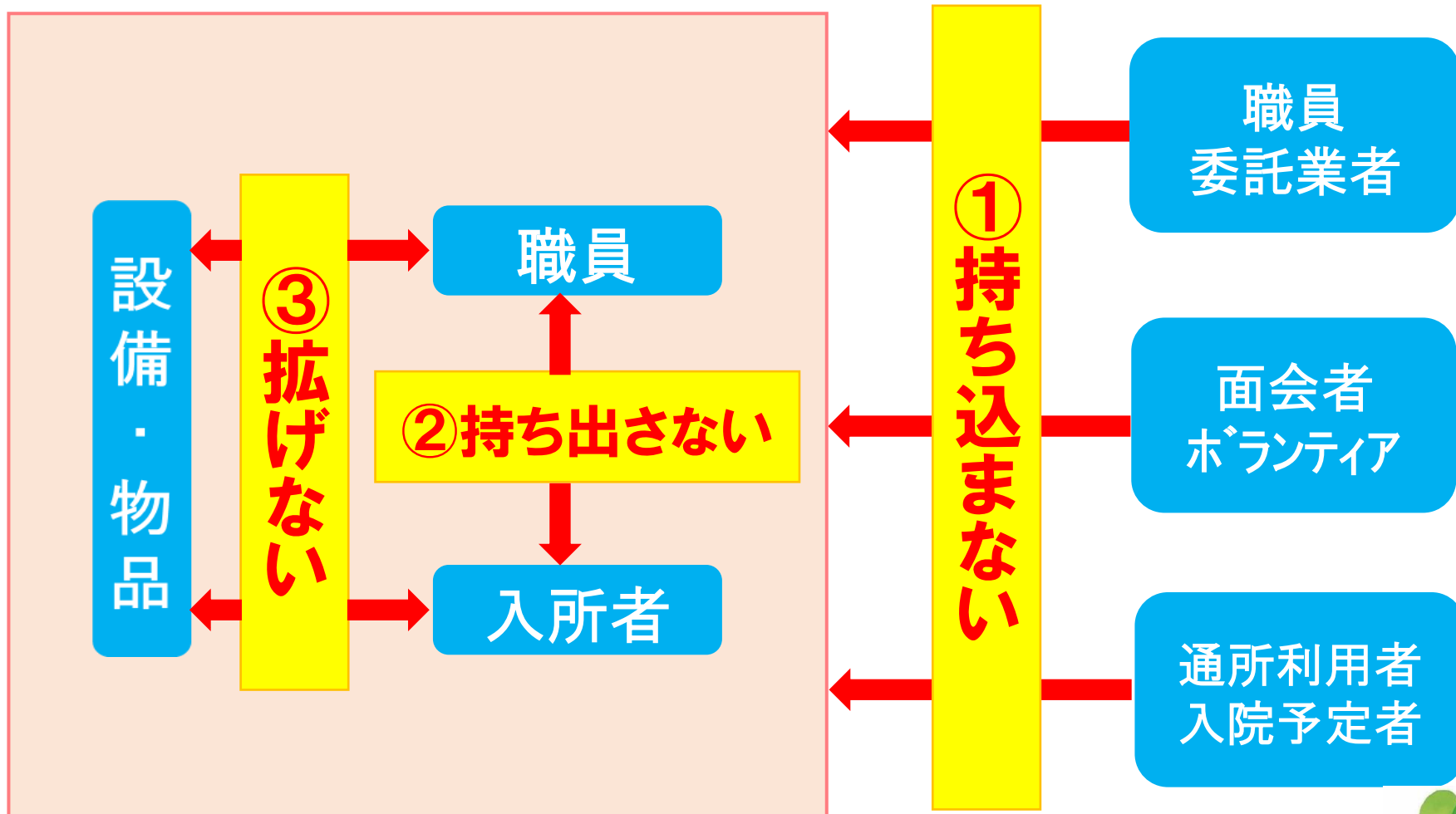
| 感染経路 | 特徴 | 主な原因微生物 |
|-------------------|--|--|
| 接触感染 (経口感染を含む) | <ul style="list-style-type: none"> ●手指・食品・器具を介して伝播する頻度の高い伝播経路である。 | ノロウイルス 腸管出血性大腸菌 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 等 |
| 飛沫感染 | <ul style="list-style-type: none"> ●咳、くしゃみ、会話等で飛沫粒子 (5 μm以上) により伝播する ●1m以内に床に落下し、空中を浮遊し続けることはない | インフルエンザウイルス 新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) ムンプスウイルス 風しんウイルス 等 |
| 空気感染 | <ul style="list-style-type: none"> ●咳、くしゃみ等で飛沫核 (5 μm未満) として伝播し、空中に浮遊し、空気の流れにより飛散する。 | 結核菌 麻しんウイルス 水痘ウイルス 等 |
| 血液媒介感染 | <ul style="list-style-type: none"> ●病原体に汚染された血液や体液、分泌物が、針刺し等により体内に入ることにより感染する。 | B型肝炎ウイルス C型肝炎ウイルス 等 |

職員が病原体を媒介しないことが重要！



感染経路対策の3つのポイント

施設内



※高齢者介護施設における感染対策マニュアルP5を改変

感染経路別の感染予防策

接触感染

- ①ケアの前後で**手指衛生**
- ②血液、体液、排泄物等に触れる時は**手袋、エプロン等の着用**
- ③汚染した可能性のある物品や室内に触れる時は**ガウン着用**
- ③汚染（感染）した場所や物を汚染されていないものとわける（個室、専用物品）
等

飛沫感染

- ①**マスクの着用**
- ②有症状の利用者にはマスク着用を
してもらう
- ③定期的な**換気**
- ④感染した者、恐れがある者とそうでない者の部屋をわける
等

血液媒介感染

- ①血液、体液、排泄物等に触れる時、飛び散る可能性があるとき**手袋・マスク・エプロンの着用**
等

空気感染

- ①感染性がある時期は入院が必要
- ②病院に移送するまでは**原則個室管理**
- ③結核で排菌している患者と接触する場合は**高性能マスク（N95等）を着用**

※手袋を外した後は、必ず手洗い又は手指消毒



宿主

私たちの身体の抵抗力を向上させ、感染症に
負けない身体をつくる

- ・ バランスの良い**食事**で適切な栄養を摂る
- ・ しっかり**睡眠・休養**をとり、体調を整える
- ・ **予防接種**を受け、ウイルスの抵抗力を高める
- ・ 元々治療している病気があれば、**治療を継続**して、**体調管理**をする

規則正しい生活を心がけ、ワクチン接種をすることが大事！

正しい手洗い

液体石けんと流水による手洗い



1
初めに、水で手を濡らし、
石けんを手に取ります
First, wet your hands with
water and apply enough soap



2
石けんをよく泡立てなが
ら、手のひらを洗います
Wash your palms while
whipping soap well



3
手の甲を伸ばすように
洗います
Wash it to extend the
back of your hand



4
指先・爪の間を
念入りに洗います
Wash your fingertips and
under nails carefully



5
指の間を洗います
Wash in between
the fingers



6
親指をねじりながら
洗います
Wash while twisting
your thumb



7
手首を洗います
Wash your wrists



8
流水で石けんと
汚れを洗い流します
Rinse off soap and dirt
under running water



9
ペーパータオルでしっかり
と、水分を拭き取ります
Dry hands using a paper-
towel

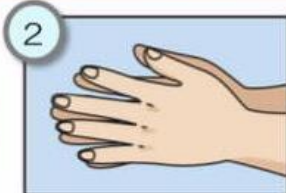
出典：厚生労働省

正しい手指消毒

エタノール含有消毒薬による手指消毒



1
十分な量を
手の平に取ります
Get an appropriate amount
of product in a cupped
hand



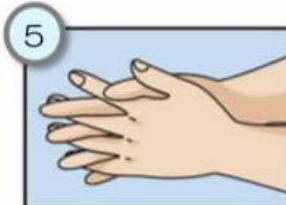
2
手のひらを
こすりあわせませ
Rub hands palm to palm



3
手の甲を合わせて
すりこみます
Palm to palm with
fingers interlaced



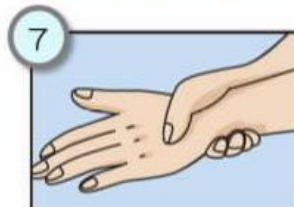
4
指先・爪の間に
すりこみます
Rub your palms and
fingertips and under nails



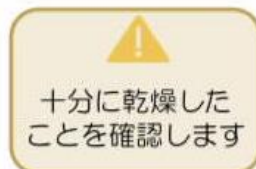
5
指の間にすりこみます
Rub in between
the fingers



6
親指をねじり合わせて
すりこみます
Rub each thumb clasped
in opposite hand using a
rotational movement



7
手首にすりこみます
Rub each wrist with opposite
hand



出典：厚生労働省

マスクの着脱方法

マスクの着脱方法

★ノーズワイヤーが上に来るように装着
★マスクの裏表が包装紙に明記されている場合は、指示に従って適切に装着

- 1 鼻と口を覆うように着用しましょう



- 2 マスクにはウイルス等がついている可能性があるため、紐をもってそっと外しましょう



- 3 マスクの外側を下にして清潔なティッシュ等の上に置いて保管します



- 4 次に使用するときも、紐を持って、マスクの外側や内側に触れないようにしましょう



- 5 使った布マスクは一日一回洗いましょう



- 6 水を飲む場合も、マスクのゴムをもって、マスクの外側や内側に触れないようにしましょう



出典：厚生労働省「感染対策普及リーフレット」

手袋の着脱方法

手袋の着脱方法

- 1 作業中に脱げないよう適切な大きさの手袋を装着します



- 2 使用後は、手袋の外側を引っ張り上げ、片方の手袋を脱ぎます



- 3 そのまま、手や腕に触れないように脱ぎます。



- 4 脱いだ手袋は、もう片方の手で握ります



- 5 手袋を脱いだ手で、もう片方の手袋の内側を持ち上げます。外側の汚れた部分に触れないよう注意します



- 6 汚れた側が内側になるように、手袋を脱ぎます



結核



結核

結核とは

●特徴

結核は結核菌による慢性感染症。多くの人が感染しても発症せずに終わるが、高齢者や免疫低下状態の人は発症しやすいと考えられている。肺が主な病巣だが、免疫の低下した人では全身感染症となる。結核の症状は、呼吸器症状（痰と咳、時に血痰・喀血）と全身症状（発熱、寝汗、倦怠感、体重減少）がみられる。咳が2週間以上続く場合は要注意。

最近の結核

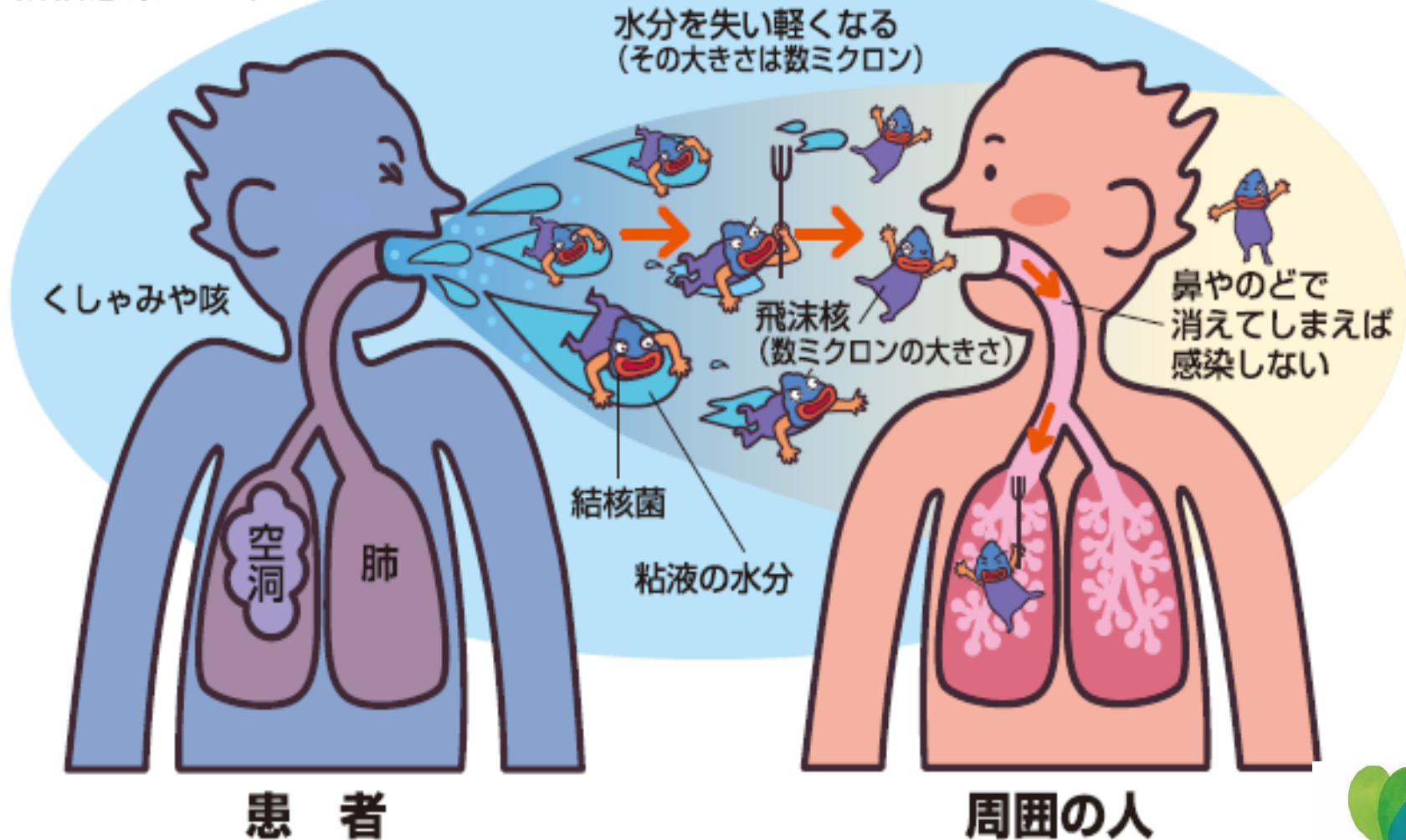
- 高齢化が進む
- 外国人生まれの方が増加
- 働き盛りの発見が遅れる
- 大都市に多く発生



結核

結核菌によっておこる慢性の感染症

結核感染のしくみ



結核

潜伏期間

感染したら発病する？

結核菌に感染する

約8~9割

一生発病しない

約1~2割

あまり時間をおかずに発病

- 感染後2~3年までに発病
- 免疫が低い乳幼児や若年者に多い

免疫力低下に伴い発病

- 高齢者に多い

体の中で菌が増えた時だけ発病

結核

高齢者の結核の特徴

主な症状

咳、痰、微熱、胸痛、体重減少、倦怠感
「よくなったり悪くなったり」をしながら進行

高齢者で注意が必要な症状

食欲低下、微熱の継続、倦怠感
なんとなく元気がない、体重減少

注意が必要な合併症

糖尿病、悪性腫瘍、慢性腎不全で透析
消化管手術歴、免疫抑制剤による治療

結核

利用者が結核(疑い)と言われたら

マスクの着用と個室対応！

結核(疑い)の方

サージカルマスクを着用してもらう
他の利用者との空間をわける（個室対応）

職員や家族等

個室に入る時はN95マスクを着用
免疫の弱い乳幼児等の面会は禁止

部屋の清掃など

部屋の窓を開けて換気を十分行う
通常の掃除や洗濯、食器洗いで大丈夫

結核

結核の早期発見のために

○結核を疑って、医療機関受診を

普段と違う様子が感じられるときは、結核も疑って医療機関に症状を伝えて、早期発見にむすびつけられるよう援助してください

○胸部レントゲン検査の受ける機会を

医療機関に定期受診している高齢者でも、年に1回のレントゲン検査を受診するよう積極的に勧めましょう

○日常生活の中で健康管理を

継続する体調不良など、丁寧な健康観察をお願いします



インフルエンザ



インフルエンザ

●特徴

日本では主に冬季に流行。インフルエンザは急に38°Cから40°Cの高熱が出るのが特徴で、鼻汁、咽頭痛、咳等の呼吸器症状のほか、頭痛、腰痛、筋肉痛、全身倦怠感の全身症状も強く、激しい症状は5日ほど続く。

●感染経路

咳・くしゃみ等による飛沫感染が主。汚染した手を介して鼻粘膜への接触で感染する場合もある。

●期間

潜伏期間は、1～3日（時に7日まで）、感染者が他に伝播させる時期は、発症の前日から症状が消失して2日後までとされている。

インフルエンザ

● 予防

- ・ 予防接種の必要性、有効性、副反応について十分説明し、ワクチン接種が受けられるような配慮を行う
- ・ 咳エチケットを守る
- ・ 寒冷等に配慮したこまめな換気

● 対応

- ・ 感染の疑いのある者、ケアを行う職員はマスクを着用
- ・ 早めに医師の診察を受ける
- ・ 感染が認められた場合、職員・関係者に連絡
- ・ 個室対応（または同じ症状の人を同室で対応）

インフルエンザ

●ウイルスの施設内の持ち込み防止のためのチェックポイント

□入所者の健康状態の把握

□入所者へのワクチン接種

□施設に出入りする人の把握と対応

□施設職員へのワクチン接種と健康管理

□施設の衛生の確保、換気の徹底

ノロウイルス



ノロウイルス

●特徴

冬季の感染性胃腸炎の主要な原因となるウイルス。感染力が強く、少量のウイルスでも感染し集団感染を起こすことがある。ノロウイルスは汚染された貝類や調理済みの食品等を、生あるいは十分加熱調理しないで食べた場合に感染する。

●感染経路

感染した人の便や手指で取り扱う食品等を介して二次感染を起こす場合が多い。接触感染のみではなく、嘔吐物の処理や時に介護中に嘔吐したときの飛沫による感染することがある。

●期間

潜伏期間は1~2日。主症状は吐き気、嘔吐、腹痛、下痢で、通常は1~2ヶ続いた後、治癒する。

ノロウイルス

●予防

- ・配膳前、食事介助前後での手洗いを行う
- ・施設内で手に触れる場所（手すり、ドアノブ、テーブル等）の清拭を心掛ける
- ・オムツ交換や排泄介助をする際は手袋を着用し、ケアの前後で手指衛生を行う

●対応

<利用者への対応>

- ・可能な限り個室に移す。共用のトイレを使用する場合は、感染者とそれ以外の人は必ずトイレを分ける。
- ・嘔吐症状が出たら食事は様子を見ながら判断。下痢や嘔吐が続くと脱水を起こしやすくなるため、水分補給が必要。
- ・高齢者は、嘔吐の際に嘔吐物を気道に詰まらせることがあるため、窒息しないように横向きに寝かせる。

<施設・事業所（職員）の対応>

- ・感染ルートを確認
- ・感染者と施設外部者が接触があったかどうかを確認。施設内で他に発症者がいないかどうかを調べる。

ノロウイルス（具体的な対応）

<嘔吐物・排泄物の処理>

- ①職員は使い捨てマスク、ガウン、手袋の着用。
- ②嘔吐があった場合は周囲2mくらいは汚染していると考える。
- ③ペーパータオル等で、外側から内側に向けて面を覆うように静かに拭き取る。
- ④最後に、**次亜塩素酸ナトリウム液（0.1~0.5%）**で確実に拭き取る。
- ⑤②③④をビニール袋に入れて、感染性廃棄物として処理する。
- ⑥職員はマスク、ガウン、手袋を外し、液体せっけんと流水による手洗いを行う
- ⑦次亜塩素酸ナトリウム液を使用した後は窓をあけて、換気する。



ノロウイルス（具体的な対応）

<洗濯>

- ①周囲を汚染しないよう丸め、ビニール袋に入れる。
- ②便や嘔吐物が付着している場合は、付着しているものを軽く洗い流す。
- ③次亜塩素酸ナトリウム液（0.1~0.5%）につける（10分程）。
あるいは、85°C以上で1分間以上熱湯消毒。

<食事>

- ①入所者に対しては水分・栄養補給をし、体力が消耗しないようにする。
- ②1日を通じた水分補給を心掛ける。

<入浴>

- ①入浴できる状態であれば1週間程は最後の入浴。症状が治まってからも最大4週間程度ウイルスが便から排出される。
- ②入浴後の洗い場やタオル等の洗浄に加え、しばらくは消毒も実施。

ノロウイルス対策

●ノロウイルスによる食中毒予防のためのチェックポイント

◆予防のポイント

- 調理する人の健康管理
- 作業前後等の手洗い

◆感染を広げないためのポイント

- 食器・環境・リネン類等の消毒

👉塩素消毒液等で消毒しましょう

- 嘔吐物等の処理

👉使い捨てマスクやガウン、手袋等を必ず着用しましょう

ノロウイルスの場合
アルコール液では十分な
消毒効果が得られません

その他の感染症

<疥癬>

ダニの一種であるヒゼンダニが皮膚に寄生することで発生する皮膚病。腹部、胸部、大腿内側等に紅斑、丘疹、鱗屑を生じ、激しいかゆみを伴う。直接的な接触感染の他に、衣類やリネン類等から間接的に感染。

<レジオネラ症>

レジオネラ属の細菌によっておこる感染症。レジオネラによって汚染された空調冷却塔水等により、飛散したエアロゾルを吸入することで感染。

<腸管出血性大腸菌感染症>

人の腸内に存在している大腸菌と性状は同じだが、ベロ毒素を産生するのが特徴。飲食物を介する経口感染がほとんど。少量の菌量で感染するといわれており、平均3~5日の潜伏期で発症し、水溶性便が続いたあと、激しい腹痛と血便となる。



しあわせ信州

まとめ

施設の管理者へのお願い

■ 利用者の個別性、施設の類型、感染症の特徴の理解

- ・ マスクをつけられない、手指衛生ができない利用者への対応、誰でも感染予防策を実施できるよう職員への周知、研修
- ・ 入所、通所、訪問などサービスに合わせた対策の実施
- ・ 感染症の感染経路など、感染症に対する知識（予防、発生時の対応）の習得

■ 施設の感染対策の再点検

- ・ 感染対策マニュアルの更新、研修の実施、施設整備（消毒等）など

■ 関係機関との連絡、連携

- ・ 感染症の情報収集、発生時の行政への届出など

■ 職員の労務管理

- ・ 職員の健康管理、職員が罹患した時に療養できる人的環境の整備など



職員へのお願い

- **利用者の個別性、施設の類型、感染症の特徴に合わせた感染対策の実施**
 - ・ 感染症に対する知識の習得（感染症の感染経路や予防方法など）と標準予防策など日常業務での実践
 - ・ 施設の感染対策マニュアル、緊急時連絡網の確認
- **自身の健康管理（感染源・媒介者にならない）**
 - ・ 抵抗力を落とさない生活
 - ・ 健康診断、予防接種を確実に受ける
 - ・ 症状がある場合は早めに受診

👉 **感染症にかかった時は、必ず管理者に申し出ましょう**





出典・参考

- 高齢者介護施設における感染対策マニュアル 改訂版, 厚生労働省, 2019.3
- 介護現場における感染対策の手引き 第2版, 厚生労働省, 2020.10

**困ったことがあれば
保健所に相談してね。**

